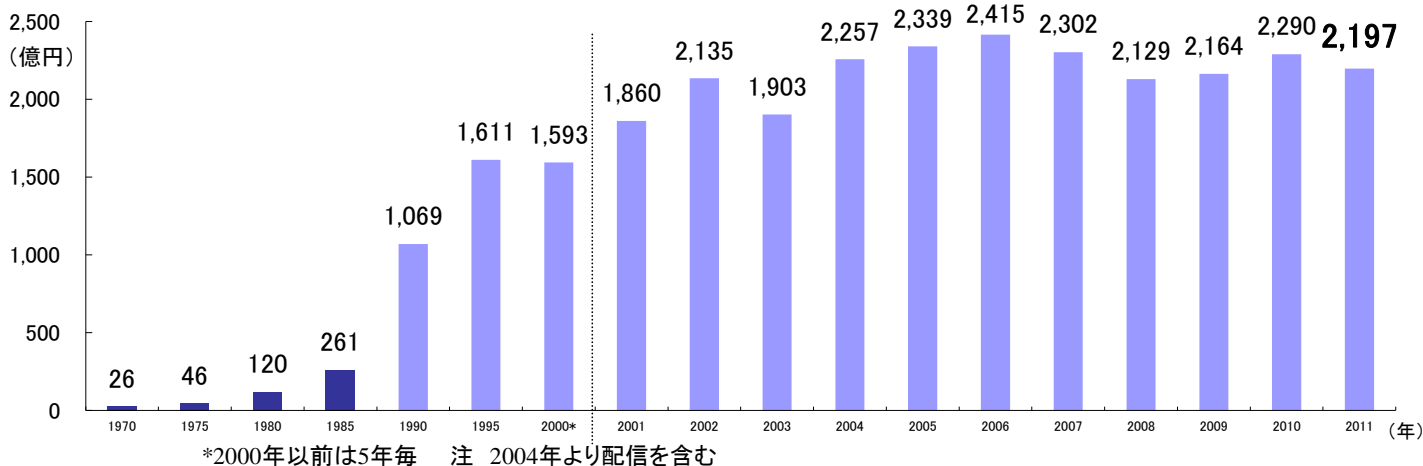


# 2011年のアニメ市場は前年比微減

## ◆アニメーション市場規模の推移<1970-2011年>



弊社が毎年実施している「アニメーション市場分析プロジェクト」の調査結果がまとまりましたので、その一部を発表いたします。

2011年(暦年)のアニメーション市場規模(ユーザー支出額)は、劇映画市場が減少し、他の市場がほぼ横ばいとなった結果、合計2197億円(前年比95.9%)と減少に転じました。

劇映画は、1作で興行収入100億円を超えるようなヒット作には恵まれず、邦画・洋画ともに前年の実績を下回りました。2011年は劇映画市場全体が前年比8割強と低迷したことも背景にあると考えられます。とはいえ、10億円～50億円規模の複数の作品が市場を支えたため、大幅な減少には至っていません。

テレビアニメは、地上波は前年比ほぼ横ばい、衛星・CATVは微増となりました。2011年10月にはアニマックスがBSでの放送を開始するなど、アニメチャンネルの視聴可能世帯はさらに増加傾向にあるため、次年以降も市場の拡大が期待されています。

アニメ市場のなかで金額的に大きな割合を占めているビデオソフト市場は、DVDからブルーレイの移行期に伴う市場の縮小が一段落しました。セルソフトにおけるアニメの占有率は引き続き高く、ブルーレイでは、売上金額の50%以上をアニメが占めています。セルソフトの売上上位には人気テレビシリーズの作品が各巻入っているほか、スタジオジブリの劇場用作品など過去の人気作が長期間に渡ってランクインして市場を支えています。

PC向け有料配信の市場が伸び悩む一方、携帯端末向けアニメ配信市場は、額は小さいながらも引き続き拡大しています。フィーチャーフォンにおけるコンテンツ市場の伸びは止まりつつありますが、今後はスマートフォンやタブレット端末向けサービスの普及によって市場が拡大する可能性があります。

2012年は、BSでディズニー・チャンネルが放送を開始し、スマートフォン向けアニメ配信サービスが本格化するなど、デバイスの変化に合わせたビジネス展開が加速しています。今後は、新しいサービスの市場動向がアニメ市場全体を好転させるかが注目されます。

### <市場の範囲>

・劇場用アニメ、アニメビデオソフト(セル/レンタル)、テレビアニメ、配信(PC、IPTV、携帯向け)

注)算出に際してはユーザー支出レベルで統一しています。ただしユーザーが直接支出に関与していない地上波およびBS放送で放映されたアニメに関しては、制作費を市場規模として採用しています。

### <本リリースに関するお問い合わせ>

株式会社 メディア開発総研 担当:戸口、柳川 TEL:03-5261-8927 FAX:03-5261-8928 e-mail:info@mdri.co.jp

引用、転載される場合は、クレジット(メディア開発総研発表)を入れていただくか、上記担当へ連絡を願います。